

猿江のアカガエルはなぜ鳴かない?! 鳴くニホンアカガエル

数年前、農工大のカエル研究者の岩井紀子先生から突然連絡が来て、猿江公園のカエルのことを教えて欲しいと言われたことがあった。公園を案内した時、岩井先生はぼそとこうつぶやいた。「あれ？猿江のニホンアカガエルは鳴かないんですねえ…なんでだろ？」ぼくはニホンアカガエルのことを猿江でしか見たことがなかったので、「鳴かない」ことがヘンだとは全く気づかなかった。その時初めてニホンアカガエルのオスは**普通は鳴く**ことを知った。

今年、あきる野市までヤマアカガエルの繁殖の様子を見に行った時 (Vol.177参照)、たまたま同所的に繁殖していたニホンアカガエルのことも見る事ができた。で、鳴いてたかって？そう！**めっちゃ騒がしく鳴いていたのだ！**ヤマアカのキャラララ…という特徴的な声に負けないぐらい騒がしく、**ニホンアカガエルがキョキョキョ…と鳴いていた**。そこはまるで“カエルの楽園”で、たくさんのオスたちがケンカする蛙合戦も見ることができた。

一方で、猿江では鳴く姿もケンカする様子も見ることがない。一応毎年産卵は確認できているが、公園内の個体数はとても少なく、いつ絶滅してもおかしくない状況だ。てことは、数が少なくてオス同士の争いも起こらないから**鳴く必要がなくなった**のだろうか？これも都市環境への適

応の一種なのだろうか？“**鳴かない**”のか“**鳴けない**”のか、どっちなんだろう？？謎は深まるばかりだ…。ニホンアカガエルの本来の姿を見たことで、猿江の“ヘンさ”に気づき、ますますカエルたちのことが気になり出した。

メスを奪い合うニホンアカガエルの蛙合戦 あきる野市

お腹がオレンジっぽい色をしているのがメス。1匹のメスにたくさんのオスが群がって奪い合っている。ちなみに蛙合戦と全く関係ないが、右上のオスが頭に泥をかぶって泥棒みたいになっていてかわいい。



ニホンアカガエルのペア あきる野市
ペアになると他のオスたちの喧騒から離れて、落ち着いた場所に移動して産卵する。ぜひVol.177のヤマアカガエルのペアと見比べて見てほしい。両者は本当にそっくりで、鳴いている時以外は見分けするのが難しい。(鼓膜の近くの形態(背側線)が少し違うので、捕まえて比較することができれば簡単に違いが分かる。)



鳴くニホンアカガエルのオス あきる野市 2月23日
ニホンアカガエルはVol.177で紹介したヤマアカガエルとは違って頬を膨らませずに鳴く。写真に写すのは難しかったが、上の写真では鳴くオスの周辺の水面に波紋が広がっているのが分かるだろうか。ニホンアカガエルは猿江公園にもいるのだが、なぜか猿江個体群は鳴かない。今回、あきる野市まで行って初めてニホンアカガエルの鳴き声を聞くことができた。鳴き声はキョキョキョ…。



手を天に向けて伸ばしているのがメス。溺れて助けを呼んでいるように見えて可哀想に思えてくる。オスが群がってくるのでメスは本当に大変そう。